

# 革新懇講演会

## 生産者から見た農と食「農の明日は」



### 米原市民報

日本共産党米原市議員  
山脇正孝 TEL.52-1093  
日本共産党米原市議員  
藤田正雄 TEL.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

8月2日(土) 近江学びあいステーションで米原革新懇と新婦人長浜支部、学校給食の無償化を求める会共催で講演会が開催されました。講師は滋賀農民連事務局長の中井良久氏です。工場三交代勤務と兼業農家を18歳から60歳続け、退職後は専業農家(年金生活)として水稲2ヘクタール(有機栽培60アール)を耕作される家族経営の農家を経営されている方です。農家の本音と今の農政の問題が話されました。

### 農業者連と農家

農業と農家の経営を守ることを目的で1989年1月結成され、日本農業と国の食糧への影響が懸念される中、国民と広くつながり農家の要求実現に農民運動の先頭たち全都道府県で戦う組織です。滋賀県連150名の組合員で「新聞農民」の読者は210名の組織です。

投げ捨て自給率48% (1990年) ↓ 38% (2023年)

### 農家の本音

① コメ離れをしていて作っても売れない事もあるのに価格が上がると文句を言われる。  
② 今まで安すぎた(消費者は勝手すぎ) 根本的には農政に振り回されている。  
③ 今の価格はむしろ本来あるべき価格に近づいている。昨年JA概算金16800円 / 60k 生産コスト18200円 / 60k でコスト割れしています。30年前日本晴18000円、5k4300円で販売されていた。

### 無農薬有機肥料栽培

娘が「お父さんお米が苦い」と言ったことから米造りを見直し植物はどうして実をつけるのかなどの勉強を始めアグロエコロジーにたどり着きました。有機栽培は雑草との闘いでいかに抑草するかが勝負で土壌造りから始めたが一朝一夕では出来ません。有機肥料は菜種の油粕の粒を30k / 反のみです。

### 農家の収入とコスト

農家に減反や減産を押し付けた結果、米不足になり価格は売る側の言い値になり儲けを乗せ高値になっています。その大きな原因は

- ① 生産基盤の弱体化 ↓ 戸別補償1500億の所得減
- ② 米価の市場任せ価格破壊
- ③ 農家数は175万戸(2000年) から53万戸(2024年) への減少と時給10円米農家は絶滅危惧種となっている。
- ④ MA米等輸入米を入れ生産基盤を壊した亡国の農政。アメリカや財界の言いなり輸入自由化や農業補償を

### 備蓄米とは

美味しい米に人が集まり消費者は農薬とか虫等に敏感で農業は自然相手の仕事で収入が安定しない。美味しくきれいで低価格で食べられる事がおかしい。農家の収入を上げないと誰もやらない。後継者も育たない。新規就農も設備投資が多額です。米が食べられるのは裏で頑張ってる努力している農家がいることを忘れてはいけません。

### 日野町の取り組み

2015年田舎暮らしをしたいと移住して来た方が3組おられ子供を保育園、小学校に通わず中で給食の米飯を有機米にと教育委員会に要求をしました。当局は町の中で有機農家を調査したところ6戸有り各戸の農法について会議を持った(農林課) 並行してオーガニック研究会がJA内に出来町・県・JAが研究会のバックアップが始まった(きらみずきの有機化) 教育委員会もオーガニック米の勉強を始めました。

### 有機農業の課題

有機農業の課題として次のような点が指摘されました。

- ① 生産者のコスト割れ
- ② 品種管理と安定供給
- ③ 有機食材は価格が高い
- ④ 作り手の課題などです。

講演の動画です

